

1. 「明治大学連携講座」文学の扉をひらく ～怪力乱神を語るべし！九州のものすごい作家たち～

九州出身の作家たち4人の強烈な生涯を振り返り、その想像力の故郷を訪ねる。

日 時： 10/3・17・31、11/14・28、12/12（水曜日）

全6回 14:00～16:00

場 所：生涯学習センター 講堂

定 員：先着 290名

受講料：3,000円

講 師：立野 正裕氏（明治大学名誉教授）



*開場は13時30分の予定

回	日程	曜 日	学 習 内 容
1	10/3	水	遅い出発、されど大器は晩成す 松本清張「或る『小倉日記』伝」
2	10/17	水	ひとときの生を輝かせて 松本清張「張込み」
3	10/31	水	痛快無比！ 悪党ども、これでも食らえ！ 火野葦平「糞尿譚」
4	11/14	水	失われた記憶を探す男の物語 梅崎春生「幻化」
5	11/28	水	メッセージ・イン・ア・ボトルの想像力に国境はない 夢野久作「瓶詰地獄」
6	12/12	水	奇想天外という言葉はこの作品のためにある！ 夢野久作（長編小説）『ドグラ・マグラ』

2. 朝鮮半島情勢と日韓関係を考える

日 時:10/7、11/4、12/9(日曜日) 全 3 回 14:00～16:00

場 所:生涯学習センター 講堂

定 員:先着 290 名

受講料:1,500 円

講 師:丹羽 泉氏(東京外国語大学教授)、洪 性旭氏(東京外国語大学特別研究員)

* 開場は13時30分の予定

回	日程	学 習 内 容
1	10/7	朝鮮半島情勢を考える～米朝危機の行方
2	11/4	当面する日韓関係について考える(1)
3	12/9	当面する日韓関係について考える(2)

この講座では、朝鮮半島情勢と日韓関係に関する講義を通して、問題を捉える視角を伝えることを目的としています。

まず、現在の米朝危機について理解し、今後どういう点に注目していくべきか、見通しをたてます。その上で2回目以降はいくつかのホットな 이슈を取り上げ、日韓関係についての理解を深めます。過去の問題は、過去の問題ではなく現在の問題であり、未来の日韓関係について考える材料とすることを基本的なテーマとしています。



丹羽 泉(東京外国語大学総合国際学研究科教授)

1956 年東京生まれ。九州大学大学院修了。1984 年から 2 年間、ソウル大学に留学。現在は東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。専門は宗教社会学、朝鮮宗教論。1975 年に初訪韓以来、ほぼ毎年韓国を訪れ、長年韓国ウォッチャーとして朝鮮半島情勢を見続けている。近年は、宗教社会学の立場から、紛争研究もテーマとしており、大学院のプログラムである「平和構築・紛争予防研究 Peace & Conflict Studies」で海外の紛争地域から参加している留学生向けの授業も提供している。著書に『韓国百科第二版』(大修館書店)など。



洪 性旭(東京外国語大学国際関係研究所特別研究員)

1982 年韓国・ソウル市生まれ。東京外国語大学大学院にて学術博士学位取得(2017 年)。現在は東京外国語大学国際関係研究所特別研究員。専門は理解社会学、社会政策論、組織論など。2016 年より、日本学術振興会「日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成事業(主催:神戸大学)」に若手研究者として参加している。主著は「日本におけるソーシャルビジネスの理解社会的考察—個人と組織の関係を中心に」(博士学位論文)、「Issues on Refugee Acceptance in Japan—Considering Japanese Modern Society」(和文タイトル:日本近代社会における難民受け入れの論点、刊行予定)など。

3. 名著再読・続 「司馬遼太郎の歩いた道」 ～その紀行と思索～

日 時：10/9・23、11/13・27、12/4（火曜日）
全 5 回 14：00～16：00

場 所：生涯学習センター 講堂

定 員：先着 290 名

受講料：2,500 円

講 師：北山 章之助氏（歴史ジャーナリスト）



*開場は13時30分の予定

回	日程	曜日	学 習 内 容
1	10/9	火	スケッチで描くアメリカ文明の原型……………「アメリカ素描」
2	10/23	火	中国とは、いかなる国なのか……………「長安から北京へ」
3	11/13	火	禅と茶と、日本美の精粹ここにあり…大徳寺散歩「街道をゆく」
4	11/27	火	わが心の古里、モンゴルをゆけば…モンゴル紀行「街道をゆく」
5	12/4	火	悲哀の島にみた不屈の魂とは……………台湾紀行「街道をゆく」

4. 西洋美術講座「20 世紀絵画入門」

日 時 : 10/20・27、11/10・17・24、12/1 (土)
14:00~16:00 (全 6 回)

場 所 : 生涯学習センター 講堂

定 員 : 先着 290 名

受講料 : 3,000 円

講 師 : 美術ジャーナリスト 斎藤陽一氏



*開場は13時30分の予定

回	日程	曜日	学 習 内 容
1	10/20	土	マティス ~楽園としての室内~
2	10/27	土	ルオー ~同伴者キリスト~
3	11/10	土	ダリ ~シュール・レアリスムの旗手~
4	11/17	土	ミロ ~カタロニア讃歌~
5	11/24	土	カンディンスキー ~抽象絵画誕生~
6	12/1	土	クレー ~詩的宇宙の画布~

20 世紀を代表する 6 人の画家たちを取り上げます。

5. 気象キャスター・平井信行さんの暮らしに役立つ天気予報

日 時 : 10/22 (月)、11/8 (木)、11/26 (月)

14:00~15:30 全3回

場 所 : 生涯学習センター 講堂

講 師 : 気象キャスター 平井 信行氏

受講料 : 2,000 円

定 員 : 先着 290 名



*開場は13時30分の予定

NHK の天気予報でお馴染みの気象予報士の平井さんは、わかりやすい解説で人気です。天気図の基礎知識や暮らしに役立つ見方などを、番組の舞台裏を交えながらお話しします。

回	日程	曜日	学 習 内 容
1	10/22	月	この夏の猛暑と豪雨について
2	11/8	木	この夏から秋の台風について
3	11/26	月	この冬の寒さはどうなる？大雪は？

6. 生涯学習ボランティア「悠学の会企画」

なるほどそうか！ 府中再発見

近代から現代へ ～時代が語る府中～

日 時：11/9・16・30（金）14:00～16:00 全3回
場 所：生涯学習センター 講堂 受講料：1,000円

*開場は13時30分の予定

2018年は、明治維新150年にあたります。江戸から東京へ、府中も宿場町と農村から、首都東京の近郊中核都市として、めざましく発展してきました。明治の初めに約1万人であった府中の人口は、今、約26万人に達しています。今回のこの講座では、その歩みを、膨張する東京の近郊都市としての府中の発展、府中における鉄道網の展開を中心に学びます。また、さまざまな施設が今どうなっているかを悠学の会チームが現地を探訪して報告します。

回	日程	曜日	講師	内容
1	11/9	金	磯部 国良氏 (ふるさと文化財課 市史編さん専門員)	東京の膨張と府中 首都東京の膨張がどのように府中に影響を及ぼしてきたかの観点から、近代から現在への府中の発展の全体像を描きます。
2	11/16	金	市川 裕太氏 (郷土の森公園交通遊園、 都電6191号修復グループ)	府中の鉄道網の展開 府中は鉄道駅の多いまち、どのように鉄道網がつくられどんな歴史を刻んできたのか、鉄道・電車好きの講師が報告します。
3	11/30	金	生涯学習ボランティア 「悠学の会」 プロジェクト・チーム	近代の遺産を探すまちあるき ・下河原線跡（下河原緑道） ・府中の戦争の記憶（燃料廠、掩体壕） などを訪ね、今どうなっているのか画像で報告します。

内容概要

① 東京の膨張と府中 — 全体像を描く 磯部 国良氏

(ふるさと歴史館 市史編さん専門員)

明治から平成まで — 首都・東京の膨張が府中にどう影響を及ぼしたか？
 明治の初めの行政区はなぜ複雑な変遷をした？ 宿場町から近郊都市へ、人口の急増、府中の主要産業、大規模施設の都心からの移転（多磨墓地、東京競馬場、府中刑務所、明星実務学校（明星学苑）、東京高等農林学校（東京農工大）、など）、それぞれの移転の経緯（なぜ府中に大型施設が移転してきたのか？エピソード）。陸軍燃料廠・調布飛行場など戦時施設と戦後の米軍基地時代。各施設はどのような発展をとげ、現在に至っているか？高度成長期の大規模団地の建設はどのように進んだか？

② 府中の鉄道網の展開 — 府中の鉄道がどのように整備されていったか

市川 裕太氏（郷土の森公園交通遊園、都電 619 号修復グループ）

明治維新で府中の交通はどうか変わったか？甲武鉄道（後の中央線）はどのようにルートが決められたのか？その開通は府中の経済的位置づけを低下させた？機関車から電車へ。まぼろしの計画に終わった川越鉄道。中央線から多摩川にのびる 2 本の砂利鉄道を敷設。京王電車はどのような経緯で開通したか？戦時下の鉄道輸送（刑務所や燃料廠への引き込み線）。高度成長期の沿線開発と乗客輸送。現在の通勤事情と今後の課題。

③ 府中の近代の遺産を探す — 「悠学の会」のまち歩き報告

- ◇ 府中に残る明治・大正の遺産（建物など） 郷土の森博物館
- ◇ 砂利採取跡の今、消えた鉄路・駅はどうなっている？下河原線・下河原駅など
- ◇ 消えた大規模施設や工場の跡地は？（日本製鋼所、陸軍燃料廠など）
- ◇ 町名に残る大工場の名前：東芝町、日鋼町、日新町
- ◇ 府中に残る戦争遺産 — 白糸台掩体壕など、米軍基地跡
- ◇ 初期の大規模住宅団地の今、など。

資料

1. 「京王電車の開通と府中駅」 府中市郷土の森博物館ブックレット 18
2016 年 7 月 郷土の森博物館発行
2. 「ふちゅう子どもはかせ 6」 府中と鉄道 2017 年 3 月 府中市立図書館発行
3. 多摩市町村のあゆみ 2015 年 2 月 公益財団法人 東京市町村自治調査会
4. 多摩のあゆみ 2000 年 11 月 15 日発行 たましん地域文化財団
5. 府中工業史 1986 年 1 月 むさし府中商工会議所

以上

7. アイヌ文化の世界

日 時 : 11/29、12/6 (木曜)
 14:00~16:00 (全 2 回)
 場 所 : 生涯学習センター 講堂
 定 員 : 先着 290 名
 講 師 : 若園雄志郎氏 (宇都宮大学准教授)、
 丸子美記子氏 (関東ウタリ会)
 受講料 : 1,000円



*開場は13時30分の予定

回	日程	曜日	学 習 内 容
1	11/29	木	北海道の先住民であるアイヌ民族の歴史、文化、民俗について研究者である若園雄志郎氏とアイヌ民族である丸木美記子氏に、映像や楽器演奏を交えながら語ってもらう。それと共に、アイヌ民族の現状や、学校教育で使用する副読本の制作などの教育面の諸問題を多文化共生の観点から論じていく。
2	12/6	木	